



# 楠の葉

佐賀大学同窓会報 第8号

発行日 2008年1月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253

FAX 0952-25-5700

E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

ホームページ <http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/>

編集者 前村 晃  
代表者

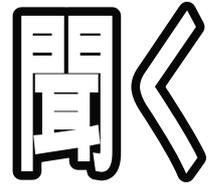
日本陸上選手権2007 800M走

# 優勝



## 第11回世界陸上選手権 大阪大会出場の

## 陣内綾子さんに



Q；まず最初に日本陸上で優勝された時のお気持ちを教えてくださいいただけますか。

陣内さん；今年は他の選手の調子が上がっておらず、自分の一番いい走りをしたら勝てると思って試合にのぞみました。決勝のレースはとにかく自分の走りをしようと思い決め、いつもと変わらず先頭に立ってレースを引っ張りました。ラスト300Mで予定通りにスパートをかけ、ラスト200

Mと100Mでさらに走りを切り替えました。スパートをかけた後一瞬、後続の選手との差が開いたように感じたのでこのまま逃げ切りたい、早くゴールにたどり着きたいということだけが頭にありました。後ろを振り向くわけにはいきませんので、前だけを向いて必死に腕を振り、脚を進めました。ですからゴールした瞬間はほっとしたのが正直な気持ちでした。トラックから引き上げるときに優勝した喜びがだんだんこみ上げてきて、今までがんばってきて良かったと心から感じました。

Q；陣内さんの場合は、厳しい練習だけでなく学校教育課程での勉強も大変と思いますが、両立の工夫をどうされていますか。

陣内さん；学校教育課程は小学校の免許取得が卒業要件であるため、授業がぎっしり詰まっており、十分な練習時間を確保できているとはいえません。県の競技場でほとんどの練習を行っていますが、特に冬季は本練習を始めるころには真っ暗になります。タータンのトラックではありますが、街灯程度の照明を頼りに走っているのが現状です。(友朋会・教育・文教の頁へ続く)



## 福岡地区支部総会・懇親会

### 「たて糸」と「よこ糸」を結んで

7月13日福岡の中心地天神の「じゃんくう（大衆洋風居酒屋）」で、今年度の福岡地区同窓会を開催しました。

今年から当番幹事制（昭和45年卒・還暦組・4名）を採り、常任幹事16名と共に準備し、当日出席者102名、本部等からの役員10名と合わせて、112名。少し狭い会場はゴツタ返し、ワイワイガヤガヤ。

司会は藤原郁男（昭45・経済卒）でスタート。座席は24卓で、1卓4～6名席。各卓にはホスト役（お世話役・幹事が担当）を配置し、入場順の自由席としました。少しでも多くの先輩後輩が交流出来るようセット。当然来賓の方もそれぞれ別々の卓に座ってもらいます。そして開宴後約50分して、更にシャッフル（席替え）を行いました。この試みは、結果初めて参加した人も否応なく、多くの人と名刺交換をし、自己紹介し、交流が進んだように思います。

同窓会は「知り合う場」であり、先輩後輩の『たて糸』と、同期生の『よこ糸』を結びつける所だと思えます。同じ「佐賀の大学」で青春の同じ時間や日々を過ごした者同士が引き合う。そして今、奇しくもこの福岡の地で仕事をしている、住んでいる。肩書きも何もいらぬ、気楽に参加し、知り合い、語り合う。老若男女、先輩後輩の誰かと話をし、交流することが出来るのが、まさに「ご馳走」です。

学部幅も広がり、教育10名、文理31名、経済32名、理工17名、農学12名の参加。しかも50歳以下の若手（？）が13名。来年は医学部にも声を掛けていきます。

「来て良かった」「参加して面白かった」と思ってもらえる場を提供することが、幹事の役割だと感じ、「ときめき」を持って参加する同窓会を目指し、今後も毎年開催して参ります。

実行委員長 清村克行（経済・46卒）

## 鳥栖・三神支部総会・懇親会

平成19年10月6日、鳥栖市のホテルピアントスにおいて第9回支部総会及び第41回「なんでん塾」を開催しました。



佐賀大学同窓会久間会長、楠葉同窓会光岡副会長、理工学部同窓会田中会長を来賓に迎え、佐賀大学の近況、それぞれの同窓会の活動状況等について報告をいただきました。総会においては、昨年支部の活動について報告を行い、次回の開催を決定しました。総会に引き続き「なんでん塾」に移りました。

この「なんでん塾」は前支部長小柳義弘氏の発案により、鳥栖市在住の楠田久男元佐賀大学を塾長に定期的に佐賀大学の先生、あるいは卒業生等を講師にゼミナールを開催するもので、今回で41回目を迎えました。鳥栖・

三神支部以外の同窓生の皆様も一度参加してみたいと思っています。

さて、今回は昭和29年文理学部卒の竹下ナカ子先生を講師に16名の参加のもと開かれました。

先生は長年、化学の先生として教鞭をとられてこられました。今回は、「燃料電池のおはなし」というテーマで手作りの資料で現役当時におとらぬ熱弁をふるわれ、その後の質疑において各参加者からたくさんの質問及び見解が出され、活発な議論となりました。時間もオーバーしたため懇親会へ移りました。酒が入り、ゼミナールの続きの質疑や近況報告など楽しい時間をすごしました。次回のゼミナールを平成20年4月5日と決定し会を閉じました。

支部長 鈴木正美（経済・48卒）

## 関西支部

秋たけなわの11月9日、都合で延期していた関西支部の集いを常設会場ラマダホテル（元東洋ホテル）で3年ぶりに開催しました。



大学側から長谷川学長直々のご参加を頂き西河副学長、原総務部長と3名、同窓会側からも久間全学同窓会長、文化教育学部宮島会長、農学部北川会長、楠葉光岡副会長、理工学部穂屋下代表、加えて同窓会事務局長副島様と合計9名の名実共に豪華なご来賓のご臨席を頂きました。関西支部に対する期待度の高さと恐縮一方でした。対して同窓生側は36名と少なかった事、ご来賓への申し訳なさで一杯でした。

今年喜寿を迎えた1回卒はじめ概ね中年以上の常連、初参加の若年層、女性の参加もあり、数の少なさは中味の濃さで十二分に補えた内容豊かな会でした。

長谷川学長より法人化されて3年経過した母校の益々の充実発展の内容を伺い、『週刊東洋経済』の記事『日本の大学トップ100』のコピーを全員に配布頂き、第47位の堂々たる位置に驚きと卒業生としての誇りを確認できました。全学同窓会、各同窓会代表より夫々の活動内容を伺い時の流れを実感しました。

関西支部も他の支部と同じく参加者の数、若い世代、女性の参加の少なさに問題を抱えていますが、参加した者はお互い旧交を温め合い参加して始めて分かった喜び驚きの声も聞かれた事、大きな成果と思っています。

あっと言う間に時間が過ぎ会の終わりはお決まりの『巻頭言』で唄うと言うより怒鳴り、踊り、学生歌『楠の葉』の大斉唱で大いに盛り上がった処でお互いの健闘を誓い合って幕を閉じました。

陶山良夫（文理経済・28卒）

## 東海支部総会・懇親会

平成19年11月18日(日)、東海支部は、第18回支部総会・懇親会（支部名は別に不知火会と称します）を名古屋駅前のホテルキャスルプラザで平成17年以来2年振りに、我が中日ドラゴンズの日本一優勝祝賀パレードの翌日に開催しました。当日は少ないながらも文理、農学、理

工、教育、経済の各学部から卒業生が参加して、これまで長く支部運営にご尽力いただいた牛草守人氏（文理36卒）から林利幸氏（文理37卒）への支部長交代を皆で確認しました。また本部からは久間同窓会長をはじめ副島事務局長、宮島文教会長、田中理工会長、小池楠葉副会長の同窓会役員、更に佐賀大学キャリアセンターから石本主幹にもご参加いただいて各氏から佐賀大学や同窓会の近況を、お話しいただき、地理的には離れているけれど卒業生として佐大発展に貢献できることがあれば、と考えた支部メンバーも少なからずみえたようです。また東海支部出席者からは各人の自己紹介と近況報告が行なわれ益々ご壮健の諸先輩に後輩一同圧倒されるばかりでした。

アルコールも進み歓談の後は高松先輩と中杉先輩のリードに久間会長も参加され、懐かしい「巻頭言」「南に遠く」を全員で高唱し、次回支部総会での再会を期し会を閉じました。



事務局 秋吉英治（経済・48卒）

### 大分県支部・豊後はがくれ会

平成19年12月1日(土)、大分第一ホテルにおいて、大分県支部総会・懇親会を開催しました。来賓に、佐賀大学同窓会の副島事務局長をはじめ4名の方をお迎えし、大

分県下で活躍している会員26名の出席をいただいて行なわれました。只最近、女性の会員や若い会員の出席が少なくなっていることが気になります。又今年は忘年会シーズン中の開催のためか、例年より少ない出席者となったため、今後は、開催日を10月最終土曜日に恒例化する事を申し合わせました。



総会では、島田達生支部長（農学・42卒）の挨拶に続き、来賓の方々から次々に大学や各同窓会の近況等が報告されました。中でも、副島事務局長からの「東洋経済」での日本の大学ランキングで、わが佐賀大学が国公立166校中47位という上位にランキングされたという報告には、同窓会員一同、喜びを禁じ得ませんでした。

総会後の懇親会では、初めて出席した3名もすぐに溶け込み、昔話や近況報告で大いに盛り上がりました。この席で島田支部長から、会員相互の親睦を更に深めるために、もっと多くの同窓会行事を企画しようという提案がありました。恒例の懇親ゴルフに加え、会員の方から梨やチューリップの花見、津久見の保戸島グルメツアーの企画が出されました。各地域の会員の方と協力しながら、ぜひ開催したいと思います。

参加者一同、再会を誓い合い、なごやかなうちに会を終了することができました。

事務局長 牧野 巧（理工・50卒）

## 採用内定者と同窓会・キャリアセンターとの懇談会

平成19年11月14日(水)大学会館2Fにおいて12時50分から採用内定者30名が各ブースに分かれて、三年次学生を対象とした就職希望者にそれぞれの企業・官庁から採用内定を受けるまでの就職活動の仕方など、その体験をもとに助言指導する場として、大学（キャリアセンター）



主催の企業研究会が実施されました。

この会は、学生の就職支援対策の一環として一昨年から実施され、今回は第3回目でした。追年、先輩に助言、指導を求める就職希望の参加者は多くなり、今回は100名程度だったと聞き及んでいます。

これに続いて、16時30分から同窓会主催の採用内定者と同窓会役員、キャリアセンター（前就職課）職員との懇談会が催されました。同窓会からは、宮尾理事長、副島事務局長等が出席し、理事長が内定者へ同窓会の概要、その活用などについてコメントしました。軽食を共にしながら懇談し、なごやかなうちに17時20分頃散会しました。

## キャリアデザイン（自己発見講座）

H 19年度実施

講義順	実施月日	内 容	担当者	講義順	実施月日	内 容	担当者
1	10月3日	ガイダンス(講義の進め方)	同窓会より 会長挨拶	8	11月21日	教育の世界で働く先輩に聞く	荒谷 弘幸
2	10月10日	実業界で働く先輩に聞く	古賀 美晴	9	11月28日	民間企業・公務員内定合格者 体験報告	在学生 (就職内定者)
3	10月17日	実業界で働く先輩に聞く	佐藤 仁美	10	12月5日	医学界で働く先輩に聞く	加藤 明
4	10月24日	民間企業・公務員内定合格者 体験報告	在学生 (就職内定者)	11	12月12日	医学界で働く先輩に聞く	本田 晃子
5	10月31日	教育界経験者の先輩に聞く	前田 和茂	12	12月19日	農林・水産業界で働く先輩に聞く	今岡 靖弘
6	11月7日	教育界経験者の先輩に聞く	宗 俊朗	13	1月9日	農林・水産業界で働く先輩に聞く	向中野裕子
7	11月14日	官庁で働く先輩に聞く	田中 正和	14	1月16日	総括(学生の質問に答える)	
				15	2月6日	定期試験	

# 陣内綾子さんに聞く

(表紙から続く)

(陣内さん) 授業と競技を両立させるために、授業をしっかりと聞き、その場でできるだけ理解を深め、家での学習は短時間でできるようにしています。レポートなどを書くために練習時間を削るわけにはいきませんので、早め早めに取り組むことなどを心掛けています。

Q ; 陣内さんに対する私たちの期待は大きいのですがこれからの抱負をお聞かせ願えますか。

陣内さん ; 日本の代表選手として恥ずかしくない走りができるようにしていきたいと考えています。国内外を問わず、おのずと注目が集まるようになるわけですから、一つ一つの大会で自分のベストを尽くせるようにするつもりです。今回の優勝も、世界大会に出られたのも、正直偶然だと思っています。他にも強い選手はたくさんおり、いつ負けてもおかしくないし、タイムもまだまだです。頂点に一度立つだけでなく、立ち続けることの難しさを今強く感じています。来年の全日本で勝つのが今の目標です。

Q ; 大学を卒業後は、どうされる予定ですか。

陣内さん ; いずれは教師となり、指導者としての活動もしたいと思います。ただ、まずは自分の納得のいく限り競技を続けるつもりです。陸上競技は20代後半に良い記録が出る事が多く、20歳前後の記録はまだまだ伸びしろのある中での記録だと思っています。記録向上はこれからの努力次第だと考えています。

Q ; 佐大生や佐賀の若い人々へのメッセージをお願いできますか。

陣内さん ; 佐賀だからできないということは決してないと思います。どちらかという佐賀は穏やかで外よりも内を見るところがあるため、周りと同じレベルであることに満足しがちです。しかし、狭い世界の中で物事を考えるのではなく、自分でどんどん開拓していくことで大きく成長していけると思います。今の現状に満足することなく、自分はもっとできると自分に自信を持ち、高めることが大切なのではないでしょうか。

## コメント / ひとこと

陣内さんの2007年の活躍はすばらしいものでした。競技者としては厳しい環境下にあるわけですが、優れた指導者に恵まれたこともあって、才能を開花させたといえるでしょう。もちろん、陸上競技者としての陣内さんの可能性はまだまだこれからですから、私たち同窓生としては今後も応援をし続けたいものです。

日本での活躍は当然のこととして、国際舞台を視野に入れて、ますます活躍されることを期待したいものです。

佐賀県在住のまま日本陸上で優勝したのは初

めてのことと聞いていますが、「佐賀だからできないことはない」と陣内さんがいう通り、2007年度は佐賀北高校の甲子園での優勝、また佐賀大学の美術・工芸課程の卒業生で現在研究生の森山寛二郎君のように、2007年度の朝日陶芸展で大賞受賞最年少者、九州初の受賞者の荣誉に輝いた人もいます。

地方で刺激が乏しいという条件下にはありますが、陣内さんがいうように、佐賀だからできない、佐大だからできないということは決してないことを、立派に実証している若者が私どもの身近にいることは頼もしい限りです。

文責 : 前村 晃 (教育・45卒)

## 平成19年度 懇親会!

平成19年度楠葉同窓会懇親会が、9月29日(土)佐賀市「千代田館」において、長谷川学長はじめ来賓の方々をお迎えし、85名の会員が参加して盛大に開催されました。

「佐賀大学ハワイアン・ミュージック研究会」の生演奏、恒例の抽選会、「楠の葉」の大合唱でクライマックスを迎え、来年の再会を約束して幕を閉じました。

今回は、会場の外に会員による「陶芸」、「写真」、「絵画」の展示もなされ、日頃の活動を披露する良い機会となりました。今後も続けていきたい企画でした。

## 古賀和文理事退任

経済学部第1回生で、平成16年4月から国立大学法人佐賀大学理事を務められた、古賀和文氏が平成19年9月30日をもって理事を退任されました。

法人化直後から3年6ヶ月に亘るご尽力に感謝いたします。

なお、平成19年10月以降は、経済学部教授として学生の指導にあたられています。



## 久間前会長 顧問に



10月24日の役員会で、楠葉同窓会前会長の久間善郎氏を顧問として招聘することを決定しました。

久間氏は、楠葉同窓会が昭和54年に設立されて3年後の昭和57年に役員に就任され、その後、平成2年に理事長、平成11年に会長に就任され、ご苦労いただきました。平成18年の佐賀大学同窓会会長就任に伴い、楠葉同窓会会長を辞任されました。

## 折原副会長、辞任



副会長の折原高宏氏から健康上の都合で役員辞任の申し出があり、9月19日の役員会で承認されました。なお、9月29日の懇親会までは大役を果たされました。

折原氏は平成13年から役員に就任され、組織を中心に活躍いただきました。特に、毎年の懇親会の開催では、実行委員会の立ち上げがスムーズにいかなくなってきている状況のなかで、懇親会をいかに継続していくかご腐心され、毎年、開催にこぎつけていただきました。

# 就任の御挨拶



佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会 会長 **江村 正** (医4期)

佐賀大学同窓会会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成19年7月21日に開催された「佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会」定例総会において、同窓会長になりました、昭和62年卒業、医4期の江村正(えむらせい)です。他の学部同窓生から見ると非常に若い同窓会長という印象だと思いますが、副会長：佐藤武(医1)・野出孝一(医5)・古島智恵(看3)、会計監事：枝國源一郎(医8)・石川倫子(看2)、事務局：甲斐敬太(医17)・垣内好信(医17)・黒田裕美(看5)ともども、よろしくお願ひ致します。

「佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会」は、昭和59年(1984年)に佐賀医科大学医学科第1回卒業生91名により発足しました。平成9年(1997年)に看護学科第1回卒業生64名が加わり、平成15年に佐賀大学と統合し現在の名称となりました。現在、医学科24回卒、看護学科11回卒までが正会員となり、会員数は3033名となっています。

本同窓会の活動としては、年1回の総会・講演会、会報発行、大学内でのキャリアデザイン講座への講師派遣、学生への活動援助(国家試験対策等の学術振興、海外研修奨学金、オープンキャンパス、大学祭、全国大会等に参加するクラブへの補助)をおこなっています。また、現在、医学部30周年記念事業に関しても協力しております。

本同窓生はほとんど全員が医療関係職に携わっておりますが、現在、医療を取り巻く環境はますます厳しくなっております。医師の過剰労働にはいまだに有効な対策が講じられていません。多くの疲労した勤務医が地域の基幹病院を離れ、忙しい診療科は生涯のキャリアとして選択されなくなってきました。

従来「医局」によって統制されていた医師の移動が地域医療を支えていたわけですが、マスコミ等が権力の象徴のように扱ったことなどにより、医局に籍を置かない医師も増えてきました。「医療の社会性」は、大学病院のさまざまな診療科に若い医師が集まることにより維持されていましたが、このままでは、佐賀でも、安心して子供が産めない、手術が必要なのに手術をしてくれる医者がいない、ということになってしまいます。「佐賀大学病院には医者がたくさんいる」と思っておられる方も少なくないでしょうが、診療だけでなく、教育や研究の責務があるのに、十分な人員が確保できていないのが現状です。大学病院からの医師の派遣が中止されると、当然のことながら地域住民からは苦情が出ますが、肝心の大学病院の医師がいなくなったら佐賀の医療は終わります。

あと、地域医療は医療スタッフだけではおこなえません。「地域の力」が必要です。自己の健康管理、医療資源が社会性のある限られたものであることへの理解、応急処置の知識・技術、家族がお互いの人生観・死生観を共有すること、万が一の時にどのような医療を希望するのか事前に話し合っておくこと、困った時に頼める隣近所との付き合い、といったことが実は地域医療を支える根幹ではないかと考えています。

佐賀の地域医療を崩壊させないためには、医学部だけでなく、全同窓生の皆様のご理解とご協力が不可欠です。是非医療をマスコミとは違った視点で捉え、医療のあり方について一緒に考えて頂きたいと思います。限られた紙面の中、論理が飛躍したかもしれませんが、皆様のご協力の程、何卒よろしくお願ひ致します。

## 卒業生へのメッセージ 7

## 技術開発の行き先



都市工学科  
学科長 岩尾雄四郎

卒業生の皆様、お元気にお過ごしでしょうか？

1974年に初めて卒業生を輩出した土木工学科は、土木・建設の両学科体制を経て建設工学科に、更に都市工学科へと衣替えをして現在に至っております。30年余りの月日が経過する中で、我々を取り囲む環境は大きく変化しました。1960年代から経済的に急成長した日本を建設技術が社会基盤整備面で支えてきました。しかし蓄積してきた国債残高は先進国の中でも際立つ程に膨張し、国家財政を大きく圧迫し始めています。国家予算に匹敵する約80兆円の建設投資額はバブル経済期を境にブレーキがかかり始めました。特に土木公共事業への投資が減少しています。その結果として卒業生の就職率も低下しましたが、建設業界の体質改善も行われ、今や我々供給側と需要側のバランスが取れてきました。

このような環境変化に対応し、都市工学科では06年4月よりコース制を採用しました。従来の土木工学分野を履修する都市環境基盤コースと、建築分野を履修する建築・都市デザインコースです。学生は2年次後期からコース別に履修しますが、希望と競

争により振り分けられます。両コースともに必要な材料・構造分野は共通的に履修します。各コースの定員は約60名と30名で、09年10月には初めてのコース分けが行われました。

日本の竹をフィラメントとしたエジソンの白熱電球の時代、電力の使用量は微々たるものであったに違いありません。ところが現代の電力需要は“灯り”だけでなく動力や通信に不可欠なものとなっています。自動車も電気自動車になろうとしています。その理由は“技術開発の産物”にあると思われます。ショルダーバッグ程大きかった携帯電話は掌大になり、メガ台の記憶媒体容量はギガ台へと恐ろしい進化を遂げました。新しい技術を使った新製品が続々と現われ、日本の製造業は外貨獲得に大きく貢献しています。翻って“建設市場における技術開発の行方はどうあるべきか？”と日々密かに考えています。1000年持ちこたえる建物の作り方？ 地盤沈下しない住宅の作り方？ 劣化しないコンクリートの作り方？ 崖崩れしない斜面の作り方？……などなどで、日本生まれの新しい建設技術がもっともっとあ

れば、年間1兆円規模の建設業界の海外工事受注額をもっともっと増やせるのに……、と思っている次第です。

国立大学から国立学校法人佐賀大学へと衣替えしました。制度や仕組みが劇的に変化した訳ではありませんが、10年から20年経た頃には大きく様変わりしていることでしょう。スタッフも08年3月には鬼塚教授が、09年3月には荒牧教授と岩尾など戦中生まれが定年を迎えます。



2007年9月25～26日に行われた2年生の合宿研修（北山少年自然の家）

# 再び、研究に戻って

佐賀大学 名誉教授 藤條 純夫

多くの有意の学生達に囲まれ、彼等のおかげで色々な面での研究の展開ができた農学部での24年少しの生活は実に充実したものでした。ただ、辞めるにあたり心残りだったことは、学生達のおかげで得られた研究成果の多くを論文として発表していなかったことで、まずはそれらを済ませてから、余生を楽しもうと思っていました。幸い、近藤栄造先生が教授室への同居を許してくれ、そうした仕事に専念できることになりましたが、3年半が経過しても、目標のほとんどを果たすことができずにいます。

もう一つ心残りだったのは、ハスモンヨトウという野菜類の害虫を材料として生理学的な面から研究を進めてきたのに、その野外での生態をほとんど把握していなかったことです。この蛾は日本では越冬せず海外から飛来してくるという説を提唱し、それが広く受け入れられるようになったものの証拠不足は歪めませんでした。そんなことから、農学部の圃場を使用させてもらい、そこに、この蛾の加害作物を栽培し、それらへの産卵や幼虫の発育を比較することにしました。耕起、堆肥入れ、播種、除草、散水、調査、さらには幼虫飼育と、止めども無く続く仕事を、とうとうこの4年近く、春から秋にかけては土日ほとんど休むこともなく続けてきてしま

ました。昨年のような酷暑での作業は70歳に近い老骨には実に辛いもので、熱中症一歩手前まで何度もたどりつきました。隣の畑では、なんと元農学部長の高木 胖先生が耕耘機を運転したり散水するのを見かけたりしましたが、学生の姿を見るのは稀でした。数を数えたり重さを測ったりの繰り返し、ほとんどは圃場の管理作業、こんなことから何か分かるのかと諦めたい気持ちになったことが何度もありました。でも、3年目、4年目と繰り返すことによって、思いがけない事実が分かってきました。長い間抱いてきた疑問が解けてきて、この昆虫が海を渡ってやって来ると確信することができました。

50代から自分で研究することができなくなってしまっただけに、退職後の4年近くは至福の時でした。農業の大変さと重要さ、現役中は無視していた野外での研究の大切さをこの歳になって初めて認識させられました。さて、これから少しは余生を楽しもうという気持ちがある一方で、さらに研究を深めたいという気持ちが沸き上がってきてしまっています。研究ができるのは今のうちで、楽しみは後まわしにしようかと。でも、一体、いつ、研究を諦められるのだろうかかと不安にもなるこの頃です。



最終講義を終えた日(2004年1月30日)の解放感は素晴らしかった

同窓生の**職場** ⑧

西日本電信電話株式会社  
法人営業本部 ソリューションビジネス部

私は、平成元年に佐賀大学を卒業し、西日本電信電話株式会社に勤務しております。

大学時代は、恩師である上原先生（後に学長を務められ退官）のもと「海洋温度差発電の研究」を通じて、新たな分野を開拓していく楽しさ、そして困難な課題に対して粘り強く取り組む精神を鍛えられました。その経験が今の自分の支えになっていると心から感謝しております。

さて、通信の世界も目まぐるしい変化を遂げ、今日のお客様ニーズは、電話（音声コミュニケーション）からIPブロードバンド（文字・音声・映像 etc の複合コミュニケーション）へとシフトしています。NTT西日本のコマースル等でおなじみの「フレッツ光」も350万回線を超えました。今春には、NGN（Next Generation Network）が商用化する等、今後、魅力的なサービス・コンテンツが益々拡がりライフスタイルも変わって

くことでしょう。

私が所属しております法人営業本部は、自治体・企業等の皆様に対し、情報化推

進の提案を行い、顧客サービス向上・事業拡大のためのお手伝いをさせて頂くミッションです。IPブロードバンドを活用した地域コミュニティの活性化・豊かな生活を実現していく上では、自治体・大学・企業・地域社会（市民の皆さん）の相互連携が不可欠です。その中に、NTT西日本として期待される役割を担い、貢献していくことが使命だと感じています。

村上公幸（理工学研究科・平成1年・修士課程修了）



第15回佐賀県青春寮歌祭り開かれる

平成19年11月17日、土曜日、エスプラッツホールにおいて、恒例の佐賀県寮歌祭りが開催されました。今年は佐賀大学・旧制佐賀高校はじめ27校の参加があり盛り上がりました。

長崎大学などは、寮歌祭後、同窓会を企画されているとかで80名を超える参加者がありました。佐賀の大隈侯と縁のある早大も例年どおり元気な歌いっぱいでしたし、東京農業大学の通称大根踊り「青山ひとり」の歌と踊りも圧巻でした。

ネクストステージを  
佐賀県で!!

佐賀県の  
暮らし  
相談室

ネクストステージを佐賀県で暮らしたいという方の転入に関する相談窓口として、「佐賀県の暮らし相談室」を設置しています。

専任アドバイザーが、県内企業への就職斡旋など、あなたのUターンをお手伝いします。

佐賀県出身者に限らず、佐賀県でネクストステージを送りたいとお考えの方は、ご連絡ください。

これまで培った経験をぜひ、県内で活かしてください。

「佐賀県の暮らし相談室」ホームページ

<http://nextstage-saga.net>

〒840-0027 佐賀県佐賀市城内1-1-59佐賀県庁本館2F

電話でのご相談 0952-25-7066

相談時間 平日 11:00~20:00

土曜日 9:00~17:00

水曜日・日曜日 休み

## 第 9 回佐賀大学大学祭 in 本庄キャンパス

学園祭中央実行委員長

中 島 由 貴

11月24日(土)・25日(日)に佐賀大学本庄キャンパスにて、第9回佐賀大学大学祭が開催されました。

今回は『エコ学祭』を目指し、バザー店での紙容器の使用や、ごみ分別、ごみ拾い等の活動に特に力を入れて取り組みました。佐賀大学ボランティア団体の方々に協力して頂くこともでき、大学祭の環境をきれいに保つことができました。

バザー店や教室等で行われた文化系サークルの出し物も、個性溢れるものばかりでした。また、ステ-

ジ企画も芸能人の出演を始め、大いに盛り上がりを見せていました。2日目に行われたフリーマーケットは、例年以上の出店数で今回も好評でした。

今回も多くの方々に来場して頂くことができました。準備期間中は大変な毎日でしたが、たくさんの笑顔が生まれる大学祭を、実行委員のメンバーと一緒に創り上げられたことを嬉しく思います。また、大学祭に関わったすべての方々に深く感謝致します。本当にありがとうございました。

### むつごろう祭や総会など

第29回実行委員長

松下 優

第29回むつごろう祭も、無事に終わり、今はほっとしています。むつごろう祭が大成功をおさめられたのも、学校関係者の皆様、地域の方、スタッフの方々のご協力なしには、成し遂げられなかったでしょう。

特に、佐賀大学の同窓会の皆様には、むつごろう祭をするに当たって、資金の面で、多大なご協力を賜り、心から、感謝しています。

今年のむつごろう祭のテーマは、「蒼魂」でした。若々しいパワーによって、佐賀大学だけでなく、佐賀全体を活気づけたいという思いがありました。たくさんのお客さんに楽しんでいただくのはもちろんのことですが、献血、骨髄バンク、アイバンクなどの提供者の依頼、募金活動、高校生向けの医学部の実習体験なども行いました。

ゲストの方々もお呼びしました。テレビで活躍しているタレントさんや、コンサートで、アーティストを呼ぶことで、むつごろう祭を盛り上げることができましたし、講演会では、有名な医師の方をお呼びして、現代の医学の現状を、知ってもらうこともできました。

また、バルーンの試乗会も行い、普段バルーンに乗る機会も少ない地域の人々からは、喜びの声をいただくことができました。バルーンについては、佐賀大学の気球部の方々が、数ヶ月前から、協力してくれて、本当に感謝しています。このように、医学部で行われる学祭ですが、本庄キャンパスの学生の皆さんとも、親交が深まったことをとてもうれしく思います。

学園祭も終わり、OBの立場になった今ですが、この学祭で得たことは、ほかにはまねすることのできないすばらしい経験でした。何事も、ひとつのことをやろうとすると、決して、人間は一人だけでは、成功しません。陰ながら、支えてくれる方々がこんなにも大勢いたんだと、終わってから感じました。自分が何かしら、周りの人に支えられていることを忘れずに、将来、医師になったときも忘れずに生きていきたいと思えます。

最後に、この場をお借りして、佐賀大学の同窓会の皆様に、ご協力いただいたことを、改めて、お礼を申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

## 大学及び同窓会の動き

- H19.7 .1 佐大同窓会会報「楠の葉」No.7 発行
- 13 福岡地区支部会 / ソラリアステーションビル 5F「じゃんくう」
- 18 佐大同窓会「代表役員会」
- 8.8 単位提供講座「キャリアデザイン」打合せ会
- 9.12 佐大同窓会代表役員会
- 3 単位提供講座「キャリアデザイン」開講ガイダンス
- 6 鳥栖・三神支部総会・懇親会 / ピアントス
- 10 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 古賀美晴氏 (経済学部)
- " 佐大同窓会代表役員会
- 17 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 佐藤仁美氏 (経済学部)
- " 佐大同窓会秋期定例役員会
- 24 単位提供講座キャリアデザイン / 在学生 (就職内定者 5名)
- 31 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 前田和茂氏 (教育学部)
- 11.6 佐大同窓会会報「楠の葉」No.8 編集会議

- 11.7 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 宗俊朗氏 (教育学部)
- 9 関西支部総会・懇親会 / ラマダホテル
- 12 佐大同窓会代表役員会
- 14 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 田中正和氏 (理工学部)
- " 佐賀大学同窓会と就職内定者との懇談会 / 大学会館
- 17 第15回佐賀県青春寮歌祭 / エスプラッツホール
- 18 東海支部総会・懇親会 / ホテルキャッスル
- 21 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 荒谷弘幸氏 (理工学部)
- 28 単位提供講座キャリアデザイン / 在学生 (就職内定者 4名)
- 12.1 大分支部総会・懇親会 / 大分第一ホテル
- 5 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 加藤明氏 (医学部)
- 12 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 本田晃子氏 (医学部)
- 13 佐大同窓会代表役員会 / はがくれ荘
- 19 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 今岡靖弘氏 (農学部)